NIKKEN
SEKKEI

NIKKEN SEKKEI
Quarterly
vol.23 2008 Winter

NIKKEN SEKKEI

Quarterly

vol.23

2008
Winter

NIKKEN SEKKEI
Quarterly

目次

watching
04 かごしま環境未来館
クライアントに聞く…. 環境リーディングシティ鹿児島の創造　松岡志郎
06 建物を見て………….. 涼しき地球の緑の丘に　磯 達雄
09 設計者は語る ……… 環境を長続きさせる建築　妹尾賢二・吉生 寛

perspectives
10 ガーデン・マネジメント——環境の時代における新たな仕組み　森山 明

topics
12 展示から
13 受賞から

NSRI都市・環境フォーラム ダイジェスト
15 第8回 まちづくりに+artsの風を吹き込む　永田宏和

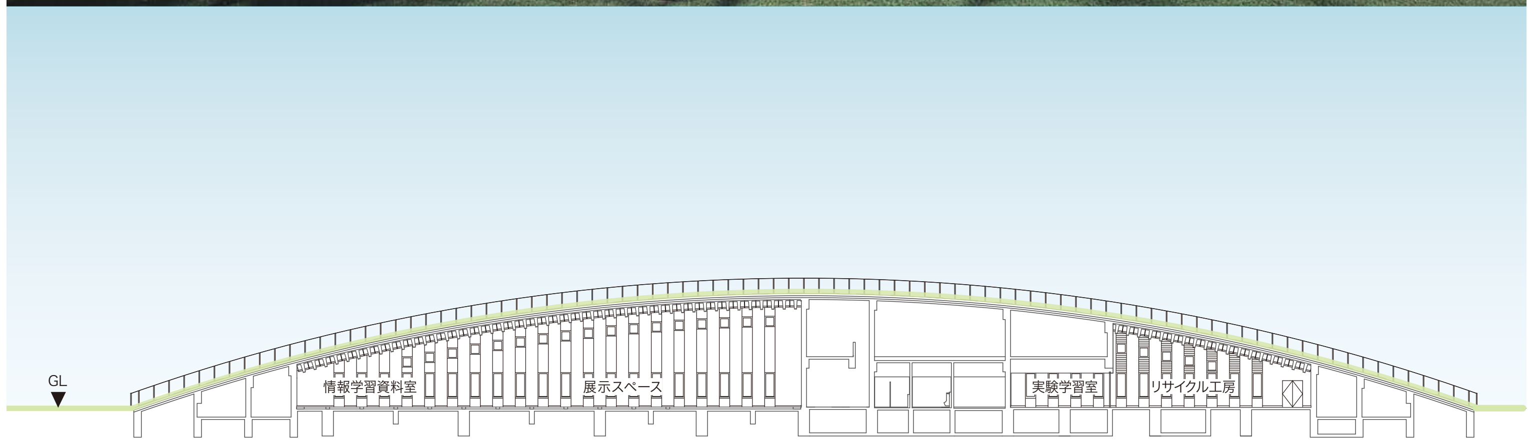
works
16 四条烏丸ウエストビル
新横浜中央ビル
昭和学院 小学校
ASO SKY CUBE（麻生塾福岡キャンパス8号館）

group news
20 日建設計シビル
日建設計コンストラクション・マネジメント

eco-essay
22 九州とアジアから生み出す現代の「新天地」　横谷英之

表紙・右　かごしま環境未来館

鹿児島市・八重山の中腹から発し、市街地を通って鹿児島湾に注ぐ甲突川(こうつきがわ)沿いに建つ公共建築です。ここでは、環境意識の高揚、環境保全活動の意欲の増進などを図るため、参加・体験型の環境学習やリサイクル活動などが展開されます。緑の丘のような大らかな姿は、それ自身が環境へのメッセージであり、南国・鹿児島にふさわしく太陽の似合う建築になっています。



断面図　1:600

vol.23
2008 Winter

watching

かごしま環境未来館

Hearing from Client　クライアントに聞く

環境リーディングシティ鹿児島の創造

鹿児島市環境局参事 環境部長
松岡志郎
(まつおか しろう)

建築主	鹿児島市
所在地	鹿児島市城西 2-1-5
敷地面積	10,162.44m^2
延べ面積	3,042.52m^2
階数	地上 2 階
構造	鉄筋コンクリート造 (一部 PC 造)
工期	2007 年 3 月〜 2008 年 9 月
共同設計・監理	下舞建築設計事務所

地球温暖化をはじめとするさまざまな環境問題は、今や人類の生存基盤に関わる喫緊の課題となっており、すべての生命の源である美しい地球を守り、人と自然が共生する豊かな環境を次の世代に引き継いでいくことは、今を生きる私たちに課せられた大きな責務になっています。

このような時代にあって、さまざまな環境問題を解決するためには、行政が率先して取り組むことはもちろんのこと、市民や事業者の皆様方に、環境に対する認識を深めていただき、三者が一体となって、具体的に行動していくことが極めて必要です。

このような中、環境学習や環境情報の発信、また環境活動の輪を広げていくための拠点施設として、「かごしま環境未来館」を2008年10月10日にオープンいたしました。環境リーディングシティを目指す本市にとって、新たな時代に向けた大きな一歩を踏み出しました。

当館は、自然の通風や採光をできるだけ取り入れる構成とするとともに、温室効果ガスの削減やヒートアイランド現象の緩和を目的に、建物の屋上や広場を芝生や樹木などで全面的に緑化したほか、太陽光発電装置の設置や、地下水や地熱の空調熱源への利用といった自然エネルギーの有効活用を図っており、まさに、館全体が環境学習の教材としての機能を備えています。

今後、このような機能を十分に活かし、環境について楽しく学び、環境に配慮した生活や行動ができるよう、参加体験型の講座等を実施するとともに、市民の皆様方と協働して、広く環境への関心を喚起し、行動につなげるようなイベント・企画展に取り組んでいくことにしております。

9月からは、鹿児島大学と本市との共同研究によって、当館の省エネルギー対策の効果を検証し、効率的なエネルギー運用のための調査などを実施しており、その結果をもとにした公共建築物や民間建築物への応用も検討したいと考えています。

当館の開館を機に市民や事業者の皆さんと、市が一緒になって、環境への負荷の少ない持続可能な都市を築いていくことを明記した「かごしま環境都市宣言」を行いました。この宣言が、当館のさまざまな機能や特徴を最大限に活用した取り組みと相まって、市民の皆様一人ひとりの環境に配慮した行動に結びつき、環境を守るという機運が、この鹿児島から国内外に大きく広がることを期待しています。

この「かごしま環境未来館」が、多くの市民の皆様に愛され、本市の恵み豊かな環境を保全、創造し、次の世代に引き継いでいくために大きな役割を果たすことを願っています。

1

2

3

4

1: 建設前の敷地状況。学校の跡地だった
2: 建設後の敷地状況。緑が増え、川とのつながりも生まれた
3: 2階レベルからの外観。左手アプローチのパーゴラには藤を、右手2階の庇にはブーゲンビリアを植えている
4: エントランスアプローチ。ウッドデッキが敷かれた「水の広場」
写真:© 三好芳昭

Impressions　建物を見て

涼しき地球の緑の丘に

磯 達雄
建築ジャーナリスト

いそ たつお
1963年埼玉県生まれ。1988年名古屋大学建築学科卒業。1988～99年『日経アーキテクチュア』編集部勤務。現在、フリックスタジオ共同主宰。桑沢デザイン研究所・武蔵野美術大学非常勤講師。建築ジャーナリストとして、現代建築、建築史、省エネルギー建築、都市論など幅広いテーマで多数の雑誌や書籍に執筆・編集。著書に『昭和モダン建築巡礼 東日本編』『昭和モダン建築巡礼 西日本編』（共に日経BP社刊）がある。

敷地全体が公園のよう

東京から取材で訪れたわれわれを、福岡にある日建設計の九州オフィスから来た設計担当者がJR鹿児島中央駅まで出迎えてくれた。同行者のひとり、九州副代表でもある妹尾賢二氏が言う。「まず見てもらいたいものがあります」。

妹尾氏がわれわれを連れていったのは、駅前にある路面電車の軌道だった。見ると、レールの間がきれいな芝生で緑化されている。聞けば、鹿児島市では2006年から路面電車の軌道の緑化に取り組み、すでに緑化された軌道数が3,400mにも及んでいるという。ヒートアイランド現象の緩和や騒音の低減を狙いとしてのものだが、都市景観の魅力を高める効果もなかなかである。この町が環境意識の高い、緑化の先進都市だということが訪問者にも伝わってくる。

今回の取材先、「かごしま環境未来館」は、そんな鹿児島市が新しく設けた環境学習施設である。

タクシーに乗って、目的地に向かう。鹿児島市の中心部を流れる甲突川（こうつきがわ）に沿ってしばらく走ると、「あそこです」と妹尾氏が指差した。それは屋根全体が芝生で覆われた小高い丘のような建物だった。

細長い敷地の形に合わせて、建物は南北に100m以上もの長さで延びる。側面から見ると太鼓橋のようなシルエットで、屋根の孤は両端が地面とつながる。つまり、外を歩いている人は、芝生張りの庭からそのまま屋根の上まで登れるようになっている。そして、そのまま歩いていけば、向こう側に降りることもできる。敷地全体が公園のようにも感じられる。

数多く採り入れられた環境技術

東側に突き出たブロックの1階から中へと入る。市民から提供された不要品をポイント制で交換したり、生活用品の修理について相談を受け付けたりするリユース・リサイクルショップを横目に見ながら、奥の展示ゾーンに向かう。床面の写真パネルで地球環境の危機的状況を訴える導入部を抜けて、この建物で一番広い展示スペースへ。ここでは環境についての知識を分かりやすい模型で解説している。屋根の形がそのまま現れた大空間には、西側の開口部から光がふんだんに差し込んでいる。演出効果を妨げることにもなりかねない外からの光は、通常の展示施設なら遮断するところだろう。しかし日常的な環境問題を扱うこの建物では、この自然な明るさこそがテーマを体現しているようにも感じられる。

その脇には古い小学校の教室を模した部屋もある。ここは使い捨てのライフスタイルが広まった昭和46年の時点から環境問題を考え直そうというコンセプトで、造作として使われた建具や黒板は、鹿児島市内の小学校の旧校舎から移設したという。同様に、展示スペースと情報学習資料室の床も解体された市民ホールのステージ床材を再利用したものだ。建物づくりにもリユース、リサイクルの考え方が貫かれている。

それ以外にも、この建物では数多くの環境技術が採り入れられた。地下水を利用した空調や床冷暖房、外気の取り入れを地下のダクトを通じて行うアースピット、建物に降った雨を散水に利用する雨水タンク、風力発電、太陽光発電などである。屋上緑化も、もちろんそのひとつだ。CO_2排出量は、通常の建物と比べて50%以下に抑えられているという。

建築の意味をあらためて考え直す

環境が建築のテーマとして語られるようになって久しい。環境への配慮は、建築の設計を行ううえで当然のこととなっている。しかし、建築をつくること自体、環境に大きな負荷を与える行為である。その負荷をできるだけ小さくすることが環境技術だが、果たして建築を建てる意味は本当にあるのか。

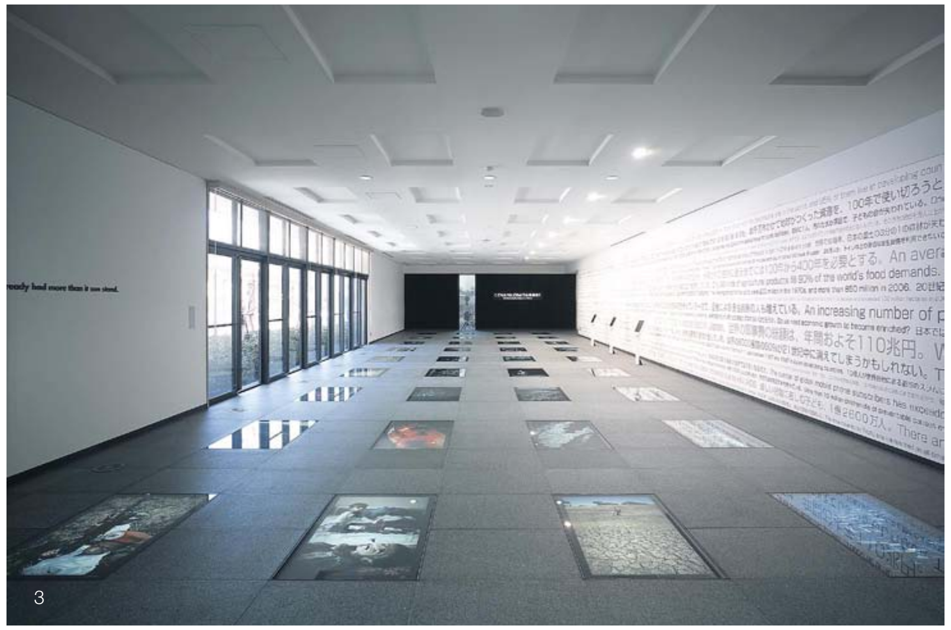
この建物の設計にプロポーザル時からかかわった吉生寛氏は、そんな根源的な問いに直面したという。その背景には、自然が豊かに残る屋久島の建築プロジェクトを担当し、長期間、現地に滞在した吉生氏の経験もある。そんな葛藤を経て、設計者が辿り着いたのが、シンプルな緑の丘として建物をつくるという答えだった。

設計者から話を聞いた後、再び建物の外に出て、イベント広場から屋上へと回った。芝生の斜面を登っていくと涼やかな風が身体を包み、両足が地面の湾曲をとらえる。「ああ自分は今、丸い地球の上に立っているのだ」。そういう思いがふとよぎる。遊びに来ていた子供たちも、同じような「地球感覚」を無意識のうちに感じていることだろう。

そんなことを考えながら、建物を後にした。

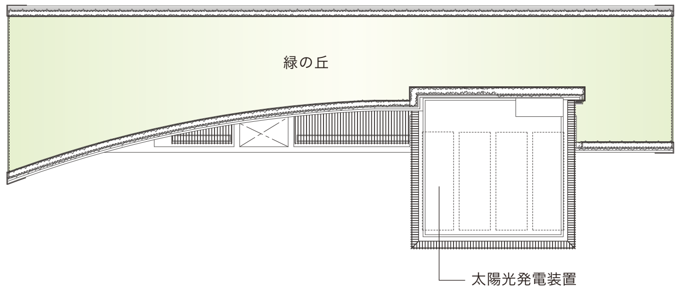
1

2

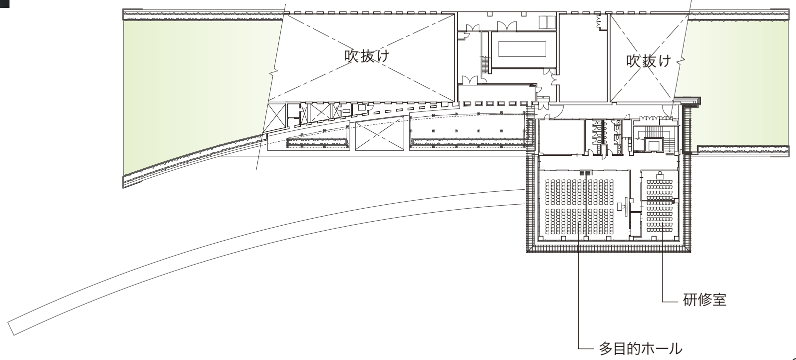

3

1: プレキャストコンクリートの構造が天井に現れた、2層吹抜けの展示スペース。床材は、鹿児島市民文化ホールのステージ改修で生じた木材を再利用している
2: ライフスタイルが大きく変化し始めた時代として昭和46年を位置付け、同時代の小学校教室を再現。建具や黒板などは市内小学校旧校舎のものを使用
3: エントランス前の展示室。床には環境意識を喚起させる写真を展示している
写真：© 三好芳昭

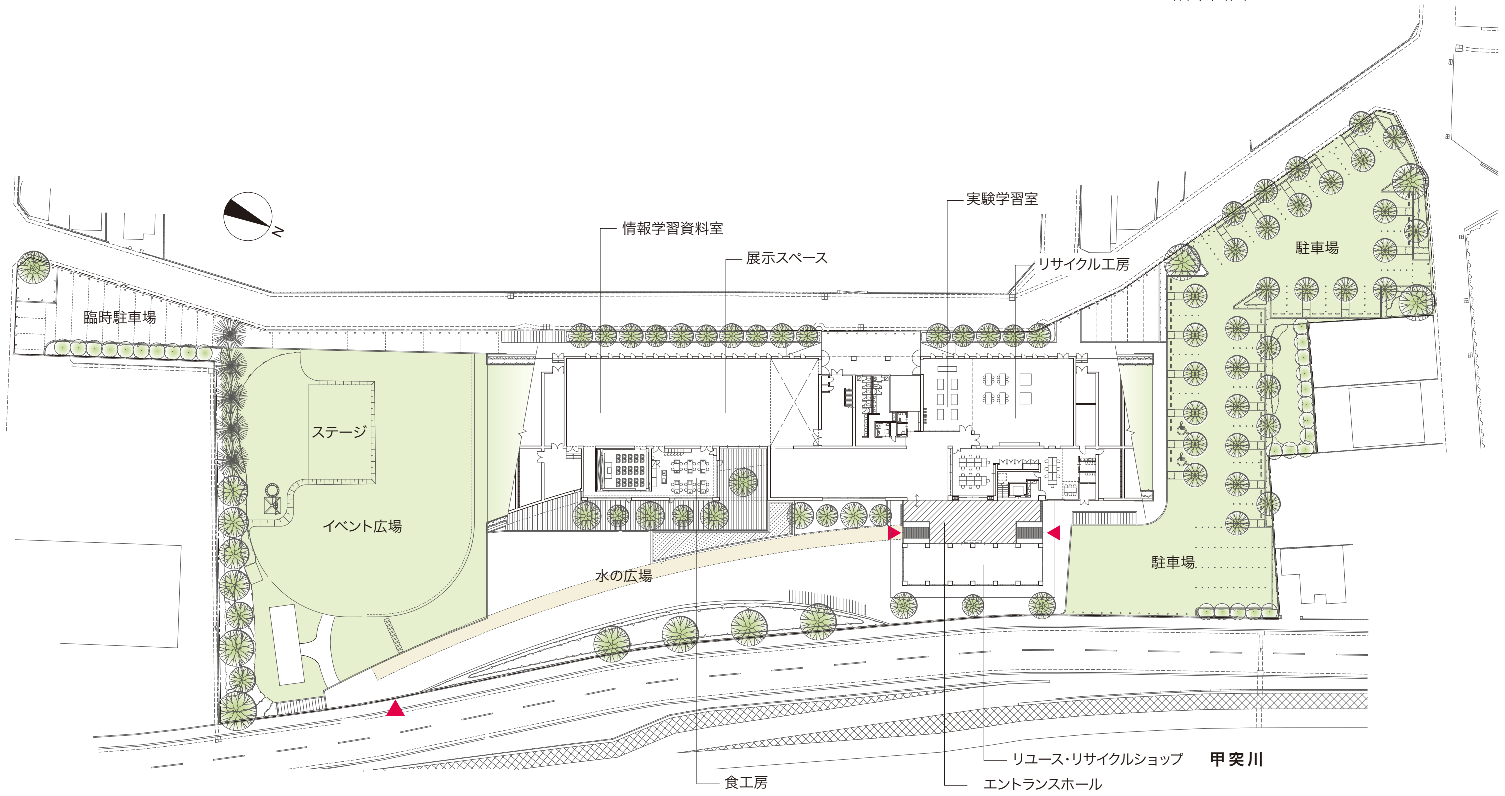
芝生が張られた屋上
写真：© 三好芳昭



屋上平面図



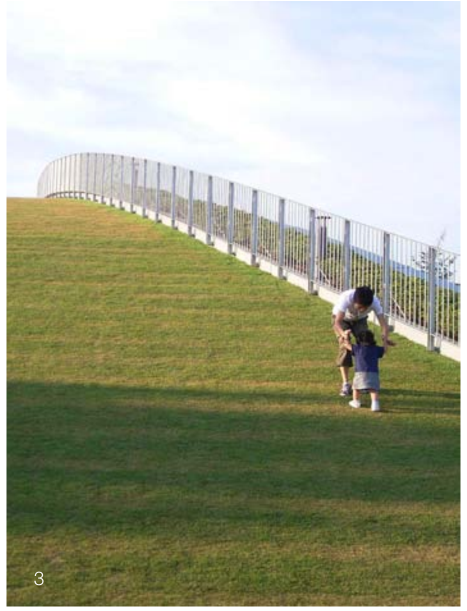
2階平面図



1階平面図　1:1,200

Inside Story　設計者は語る

環境を長続きさせる建物



1: 緑化が進む鹿児島市の路面電車の軌道
2: 軌道緑化によって、道路面の温度低下、騒音の減少などの効果が報告されている
以上、写真提供：鹿児島市
3: 緑化された屋上でのワンシーン

“緑の丘”をつくり出す

建物というのは公共建築にせよ、商業ビルにせよ、何らかの目的があって建てています。それが達成できれば、あとは建物が環境に与えるマイナスの影響をできるだけ減らすことに建築設計者は努力すればいいわけです。

ところが、この建物は環境を守り、環境への意識を啓蒙することを目的にした建物ですから、影響を減らすというだけでは建物を建てる意味が半減してしまう。建物を建てたことによって、環境が良くなっていかなければならない。そこのところをまず考えました。

そうして出てきたのが、屋上緑化を大胆に行って緑の丘をつくるというコンセプトです。建物のボリュームを抑えながら、公園のような場所をつくることで、周りに住んでいる人にも喜ばれる場所になると考えたのです。環境がテーマですが、説教くさくなってもいけません。多くの人に喜んでもらえて、それが結果的には環境に良いというかたちが、環境に対する取り組みを長続きさせていく秘訣だと思っています。

実は施工の段階で、屋上の斜面が急すぎるのではないかとか、階段を設けた方がいいのではないかとか、いろいろ議論ももち上がりました。しかし最終的には当初のアイデアの通り、緑の芝生だけが斜面を覆っています。“緑の丘”というシンプルで分かりやすいキャッチフレーズが、関係者に共有されたからだと思います。

立地をさまざまな角度から利用する

もうひとつ、設計のうえで意識したのが、立地条件を生かした設計です。敷地は甲突川に近く、豊富な地下水があります。これを利用することを考えました。井戸の試掘を行って、水量や水質を確認したうえで、空調や雑用水に使っています。

3つ目のコンセプトが、鹿児島産の自然素材をできるだけ使うということです。地元の材料を使えば輸送に使うエネルギーを抑えられるというメリットがありますが、それだけでなく面白い素材がいろいろあります。たとえばシラス（火山噴出物）が良い例で、屋上緑化に採用した緑化基盤や外構のインターロッキングブロックにはシラスが混入されています。そういうものをなるべく使おうと試みました。

将来へとつなげる環境への取り組み

今回の建築プロジェクトが実現したのは、路面電車の軌道緑化に見られるような、鹿児島市の積極的な環境に対する取り組みがあったからこそです。工事にあたっては、現場事務所も空調や照明をこまめに入り切りして打合せを行うなど、環境への取り組みを実践しました。この建物がきっかけとなって、環境を守るという態度が自然にひろまっていけば、長い目で見て環境に大きなプラスをもたらすと思います。

すでに子供たちが大勢、来てくれています。将来が楽しみです。　　（聞き手：磯 達雄）

日建設計
九州副代表設計室長
妹尾賢二
（せのお けんじ）

日建設計
設計部門設計室主管
吉生 寛
（よしお ひろし）

ガーデン・マネジメント──環境の時代における新たな仕組み

メンテナンスからマネジメントへ

庭園や緑地を美しく快適に保つには維持管理（=メンテナンス）が必要ですが、その費用は負担として否定的に受け取られ、削減の対象にされる傾向にあります。

しかし、発想を転換してみましょう。美しく手入れされた庭園や緑地は訪れる人々の心をなごませ、環境の魅力を高める大切な空間となり、結果として建物の付加価値も高まります。

手入れに費用をかけるのは負担どころか、環境に付加価値を付ける投資であり、それによる恩恵（見返り）も受けられる環境経営（=マネジメント）の一環だと考えます。

維持管理（=メンテナンス）から環境経営（=マネジメント）へ。ガーデン・マネジメントは、このような発想の転換から生まれた、日建設計の新しい庭園・緑地管理の仕組みです。

ガーデン・マネジメントの仕組み

庭園・緑地の維持管理方法は、緑地管理マニュアル等に基づいて、毎年繰り返すべき作業を固定して行われるのが一般的です。しかし、この方法では樹木の姿や形、草花の種類や特性、立地特性等までは規定されません。その結果、枝の強剪定により樹形が崩れて樹勢が衰えたり、植物の成長が過度に抑制され植物同士のバランスが損われるなどの弊害が起こります。

しかもその費用は管理作業項目ごとに積み上げるため、単年度の維持管理費として固定化され、何年続けても低減させることができません。まさに維持管理費が「維持」されてしまうのです。

新しい発想によるガーデン・マネジメントは費用対効果を念頭に、その庭園・緑地の完成の姿を提示し、それに必要な手入れは優先するが、逆に樹姿を崩す恐れのある剪定作業を省略し、不急の作業を中期計画に位置付ける合理的な仕組みです。具体的には次のように行います。

1. 定期点検（巡回）｜これがポイントです

庭園設計者がオーナーズ・コンサルの立場で定期的に巡回して植物の生育状況を診断し、設計意図にかなった枝ぶりや全体の樹形バランス、草花類の繁茂状況、排水不良の有無など、一般的な維持管理マニュアルにはない設計者の視点に基づく手入れの具体的な方法を盛り込んだ処方箋を作成します。巡回頻度はできれば月に1回、少なくとも四季の変わり目に各1回、計4回は必要です。

2. 優先順位｜A、Bを優先実行、C、Dは中期計画に位置付けます

作業項目と内容に優先順位を付け、各ランクに分別しながら柔軟に手入れを行います。

ランクA：1ヶ月以内に行うべき緊急性のある作業
ランクB：1年以内の適期をみて行う作業
ランクC：3～5年周期で行えば十分な作業
ランクD：8～10年周期でよい作業

作業項目をランク付けした処方箋の内容を、巡回点検報告と共に事業所の環境管理部局（緑化委員会など）に説明し、実行の承認を受けます。

3. ホームドクター化｜何でも相談できるかかりつけ医です

実際の手入れ作業は、診断を行った庭園設計者が直接行うか、その指導のもとで専門技術者が行うようにして、かかりつけのいわゆるホームドクター化を図ることが重要です。これによって、きめ細かで無駄のない必要最小限の手入れを行うことができます。

4. 専任ガーデナーの派遣｜成功の鍵を握る人材です

ガーデン・マネジメントの最大の特徴は、庭園設計者が選定した専任のガーデナーを定期的に派遣するシステムにあります。具体的にご説明します。

庭園設計の意図を十分理解し、設定された庭園の将来の姿（管理目標）を念頭において剪定や土壌改良を行ってくれる専門技能者を専任ガーデナーとして選定します。

3年前にスタートした名古屋の例では、週1日、年間48回の派遣で、手入れ内容をまとめた管理項目一覧表に従って、必要な作業を臨機応変に行っています。週1回訪れるうちに居住者と顔見知りになり、衰弱した観葉植物の手当てについて園芸相談を受けたり、子供たちから花の名前や果樹の実る時期を聞かれたり、3年目に入った現在では、すっかり頼りにされる「緑のお兄ちゃん」になっています。

5. 投資の回収（収穫）｜庭からの楽しみを受け取れます

見頃を過ぎた花を活用してドライフラワーやアロマテラピーを楽しんだり、繁茂して間引きが必要になったハーブや果実を採取してキッチン・ガーデニングを楽しむなど、ホームドクターと専任ガーデナーの手ほどきを受けて、さまざまに庭の楽しみを味わうことができます。

それまで負担に感じていた庭園管理費が、このように形を変えて投資の回収ともいうべき収穫となってリターンされるのです。

6. 新たなコミュニティ形成の触媒役｜新しい交流の形です

こうした活動を通じて多くの初対面の人々やファミリー達が、ガーデン・マネジメントという共有の舞台の上で一体感を味わいつつ交流を深め、新たなコミュニティ形成の輪に加わっていくことでしょう。

（森山 明）

●分譲マンション「マンション・メリア」（名古屋市）での取り組み

1: 中庭。裸足で遊べる安心の中庭は、居住者にとって大切な共有の財産となっている
2: 中庭の雑木林。子供たちは家でゲームをするより、この自然の庭で友達と生き生きと遊んでいる
3: 中庭・モミジの回廊。あえて剪定しないことで、自然の樹姿の美しさを堪能できるようになる
4: 中庭のアジサイ。剪定を控えて大きく育てると見事な花の景観を演出することができる
5: 中庭・ハーブの小路。住人は自由にハーブを摘み取って、フレッシュハーブティーを楽しむこともできる
6: 専属ガーデナーの佐藤氏。彼のトレードマークともいえる出で立ちは、住民たちにはおなじみの光景であり、頼りにされる存在となっている
7: 中庭のシャクナゲ。毎年春には敷地全体があでやかな花色に覆いつくされる
8: 中庭・花かん木類混植。雑草だけを注意深く抜き取ると自然の雰囲気を生み出すことができる

●大規模建築での取り組み

9:「フジテック Big Wing」（滋賀、2006年竣工）正面エントランス。さわやかなエントランス景観は、月1回の巡回点検を行って実現している

10:「アサヒビール神奈川工場」（安藤忠雄建築研究所と共同設計、2002年竣工）。広大なランドスケープ景観は、月1回の巡回点検によって育成されている

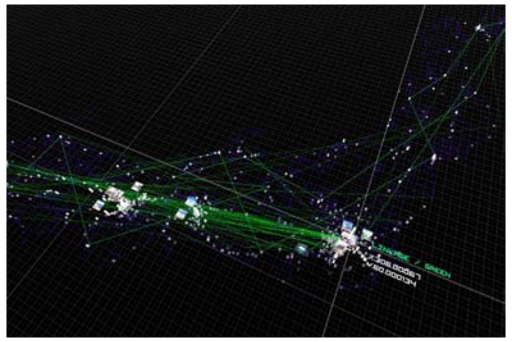
日建設計
ランドスケープ設計室技術長
森山 明
（もりやま あきら）

埼玉県立近代美術館「都市を創る建築への挑戦」展

この展覧会は、15の建築設計組織を取り上げ、現代の都市に対する建築の取り組みを紹介したものです。公共美術館においては、設計組織にスポットをあて、都市の建築について考える初めての展覧会です。

　当社は「つなぐ」をテーマに、建築によってつくられた、景観やまち並み、緑のつながりを紹介しています。つながりを象徴する土を用いた模型台や、水が蒸発する際の潜熱効果を利用して周辺の気温を下げる機能をもつルーバーのモックアップ（実物大試作品）展示など、インスタレーション的・体感的な展示としています。また、展示映像においては、これまでに当社が日本で手がけてきた数多くの建築が、どのようなつながりを見せているのかをデジタルに表現しています。

■「都市を創る建築への挑戦」展
会　期：2009年1月25日(日)まで　10：00～17：30
休館日：12月26日～1月5日、月曜日(1月12日は開館)、1月13日
入場料：一般800円
会場・問合せ：埼玉県立近代美術館(埼玉県さいたま市浦和区常盤9-30-1)
Tel 048-824-0111
http://www.momas.jp/


映像のワンシーン

展示風景
写真：©新 良太

Cityscape Dubai 2008

10月6日から9日まで、UAEドバイ国際展示場で開催された不動産投資開発イベント「Cityscape Dubai 2008」に出展しました。このイベントは、今年で7年目の開催で、今回は6万人の不動産関係者・120ヶ国以上1,500人の出展者参加という、世界でも最大規模のものです。

　当社は「Global Firm」と「Green」をテーマに、海外12ヶ国で進んでいるプロジェクトや、光ダクトなどの環境技術を紹介しました。

会場風景

日建設計 タワー展／第2回建築環境デザインコンペ作品展

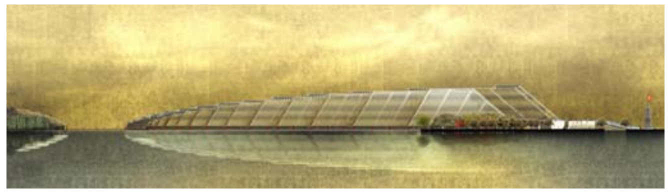
9月16日から11月14日まで、日建設計東京オフィス1Fギャラリーにて「タワー展」を開催しました。本展は、今年7月に着工した東京スカイツリーを中心に紹介したものです。エントランスのガラス面には、これまでに当社が手がけたタワー10棟の立面図を1/100スケールで展示しました。

　現在、同スペースにて、2009年1月16日まで「第2回建築環境デザインコンペ作品展」を開催中です。これは「サスティナブル・リ・デザイン」をテーマにした社内アイデアコンペ入賞作の展示です。

タワー展 展示風景

ベトナム国家歴史博物館コンペティションに選定

「ベトナム国家歴史博物館設計コンペティション」において、当社の計画案が選定・承認されました。計画案では、敷地となるハノイの風水上の地勢に着目した配置計画としています。また、環境面に配慮しつつ、アジアの伝統的様式を重視したデザインとして、ベトナム建築文化の発展につなげていく思いを込めています。現在、実現に向けて取り組んでいるところです。


計画案ドローイング

第49回BCS賞（建築業協会賞）　(社)建築業協会

大阪弁護士会館
本賞

山陽新聞社新本社ビル
本賞

なんばパークス
特別賞

東京ミッドタウン
特別賞

平成20年度 日事連建築賞　(社)日本建築士事務所協会連合会

川本製作所東京ビル
小規模建築部門・国土交通大臣賞

龍谷大学大宮図書館
一般建築部門・優秀賞

熊本県こども総合療育センター
一般建築部門・奨励賞

北見信用金庫本店
一般建築部門・奨励賞

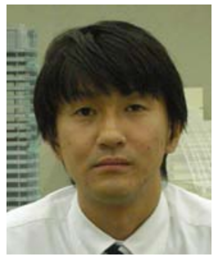
2008年度国土交通大臣表彰　国土交通省

山口祥悟
建設事業関係功労者

牧村 功
建設事業関係功労者

第55回青年技術者表彰　(社)日本建築協会

塩田哲也
(栄三丁目ビルディングLACHIC・レクサス店舗開発設計プロジェクト・いちい信用金庫新本店)
設計・計画部門


久下武彦
(総合地球環境学研究所)
設計・計画部門

後藤祥仁
(NHK新徳島放送会館「放送センターにおける機能性・省エネルギー性・将来更新性への配慮」)
設備部門

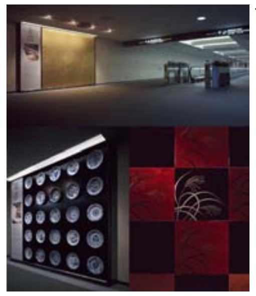
2008年度グッドデザイン賞（Gマーク賞）　（財）日本産業デザイン振興会

都市と建築の熱環境設計ツール
［サーモレンダー 3 Pro］
山村真司（NSRI）が共同開発に参加
金賞（コミュニケーションデザイン部門）

モード学園スパイラルタワーズ
社会領域－公共施設・建築

千葉中央市街地再開発ビル
きぼーる千葉中央
社会領域－公共施設・建築

立教学院 太刀川記念交流会館
社会領域－公共施設・建築



*
成田国際空港
第２旅客ターミナルビル サテライト
到着コンコースアートワーク
社会領域－公共施設・建築

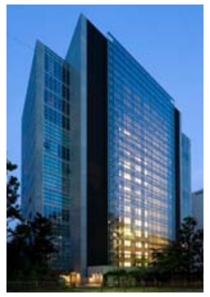
川本製作所東京ビル
産業領域－オフィス・商業施設、生産施設

神保町シアタービル
産業領域－オフィス・商業施設、生産施設

小学館すずらん通りビル
産業領域－オフィス・商業施設、生産施設

INAX 大阪ビル
産業領域－オフィス・商業施設、生産施設

乃村工藝社本社ビル
産業領域－オフィス・商業施設、生産施設



千鳥ヶ淵ハウス
生活領域－戸建て住宅、集合住宅

カスケード神宮前
（日建ハウジングシステム）
集合住宅

シティテラスさいたま新都心
（日建ハウジングシステム）
集合住宅

キャピタルマークタワー
（日建ハウジングシステム）
集合住宅

第24回日本図書館協会建築賞　（社）日本図書館協会

龍谷大学大宮図書館
建築賞

＊印写真：©フォワードストローク

NSRI 都市・環境フォーラム ダイジェスト

http://www1k.mesh.ne.jp/toshikei/
NSRI 都市・環境フォーラムの全容は、ホームページに掲載されていますのでご覧ください。

第8回　2008年8月28日

まちづくりに+artsの風を吹き込む　－不完全プランニングのすすめ－

■「＋arts」の理念

まちづくりの分野では、防災や防犯、環境問題といった、どのテーマも少し行き詰まっていて、「なんとかせなあかんな」という声が現場から聞こえてくる。

こうした既存の分野の行き詰まったテーマに「＋arts」という考え方（artではなく複数形のarts）を取り入れる。artsという、美術だけでなく、建築やデザインなどを包含した、既成概念に捉われない新しいセンスや発想をプラスすることによって課題を解決し、そして活性化させる、というのが私たちの提案する＋artsの思考法である。

■ 防災＋arts

私たちの活動では、防災の日常化を一番のミッションとしている。皆の意識の中にあるものの置き去りにされがちな「防災」をどう日常化していくか、が大きなテーマである。

2005年、阪神・淡路大震災から10年の節目に、これまでの防災訓練がもつ「若い家族連れが集まらない、顔ぶれが毎年同じ、動員で人集めしている」という問題点を解消させたイベント「イザ！カエルキャラバン！」が生まれた。これは「かえっこバザール」というイベントの仕組みをベースにしている。

「かえっこバザール」は全国で展開しているおもちゃのリサイクルイベントで、毎回多くの家族が押し寄せ、リピート率が高く、そして楽しい、という防災訓練に足りない部分をすべて補う要素をもち合わせていた。それをヒントにつくった新しい防災訓練イベントが「イザ！カエルキャラバン！」である。

一つひとつの防災体験コーナーでも被災者の声や学生等のアイデアを生かし、子どもにも楽しく、実際にも役立つプログラムを工夫して行っている。子どもを巻き込むことはイベント成功のカギである。子どもを巻き込めば、親が、そして祖父母がついてくる。子どもは「学びなさい」と指示しても学ばないが、楽しい場を与えれば、強制しなくても自主的に何度も繰り返し参加し、自然に学んでいく。しかも、繰り返し行うことは教育的効果がとても高い。

■ 教育、まちづくり……＋arts

教育＋artsの取り組みとして、2001年から開催した「Nature Art Camp」という、森を舞台にしたアーティストによる子ども向け教育ワークショップがある。ここでは、結果ではなくプロセス（子どもたちがどれだけトライしたか、考えたか、取り組んだか）を大切にしている。

また、まちづくりとの関わりでは、住民の方こそアーティストになり得るし、なってほしいと思っていつも活動している。地域の人の発想を基に、最後のひと押しをプラスするのが＋artsの役割である。継続していける枠組みと発想を提供し、行動自体は住民主体で行うようにする。開催するイベントの意義は「きっかけづくり」であり、これによって得られた「結束」が次の新たな活動につながる。

■ 不完全プランニングのすすめ

完璧にできあがったものは、受け取る側に「やらされている感」を与え、自分のものになり得ない。よって、プランニングにおいては少しスキをつくっておくようにする。ただし、同時に、そのプランには強度がなければならない。

イベントづくりでは、ルールを完璧には決めず、受け取る側が自分たちで好きなようにカスタマイズできるようにしておきながら、コアとなる仕組み自体は非常に楽しかったり、感動的であったり、非日常的なことであったりする。強度がありつつ、変わりやすく、境界部分がとても緩くつくられている、そんなプランはのちのち地域に根付くことができる。

まちづくりは誰のためのものなのか、自分の役割はどうあるべきか、を常に考え、前に出すぎず、自分の立ち位置に作法をもって取り組むことが大切だと考えている。

（構成：NSRI 小池万里）

講師：永田宏和
株式会社iop都市文化創造研究所代表取締役、NPO法人プラス・アーツ理事長

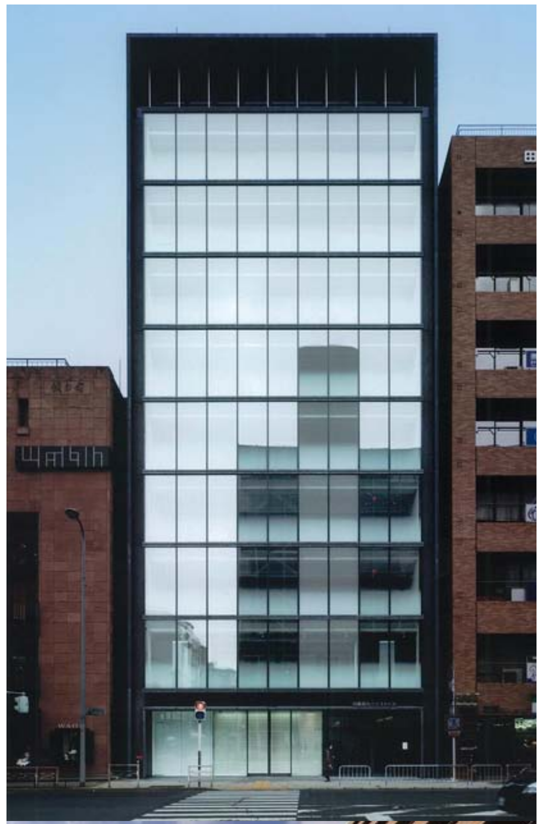
ながた ひろかず
1968年兵庫県生まれ。1993年大阪大学大学院修了後、竹中工務店入社。2001年同社を退社後、まちづくり、建築プロデュース、アートイベントの３つを業務の柱とする「iop都市文化創造研究所」を設立。2005年、阪神・淡路大震災10年事業でファミリーが楽しみながら防災を学ぶ新しい形の防災訓練プログラム「神戸カエルキャラバン2005」を美術家・藤浩志とともに開発。NPO法人「イザ！カエルキャラバン！」に改称し、首都圏、新潟、宮崎など全国で展開中。（http://kaerulab.exblog.jp/）大阪大学、武庫川女子短期大学非常勤講師。

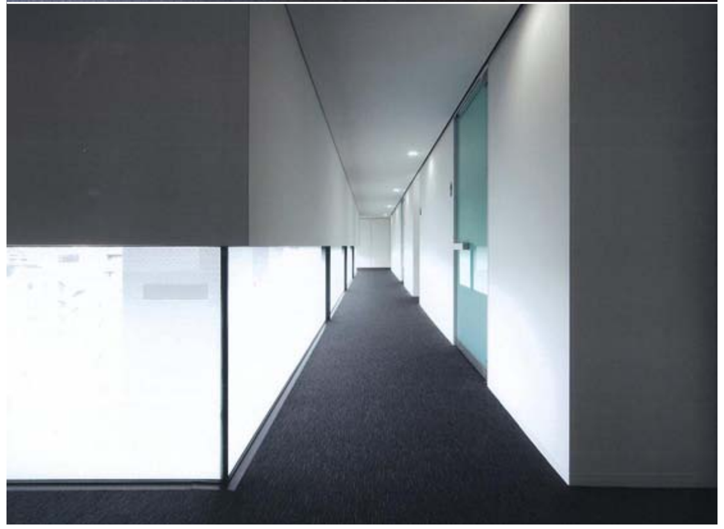
四条烏丸ウエストビル

間口が狭く奥行きが深い、京都特有の敷地に立地するオフィスビルです。カーテンウォール全面に耐熱ガラスを用いて層間区画を形成し、シンプルで美しいファサードをつくっています。容積を満たすために階高を3.2mに抑え、天井を張らずに鉄骨梁・キーストンプレート面を露出しながらすっきりとした開放感のある執務空間としてまとめました。

主な環境配慮：グラデーションフィルム貼り複層ガラスによる自然光制御、共用部人感センサー照明制御と自然採光、CASBEE B+評価

建築主	株式会社マルトー
所在地	京都市下京区四条通室町東入 函谷鉾町79
敷地面積	811.96m^2
延べ面積	6,258.88m^2
階数	地下1階、地上10階
構造	鉄骨造
工期	2006年10月～2008年1月





写真：©東出清彦

新横浜中央ビル

東海道新幹線・新横浜駅の機能拡充整備に伴う、駅ビル・駅前広場の一体的整備計画で、歩行者デッキやタクシープール、バス乗場といった都市基盤施設整備も含めた官民一体型のプロジェクトです。交通広場・アトリウムを結節点として、駅、店舗、オフィス、ホテルを立体的に配置し、外部からも賑わいが感じられる施設構成としました。

主な環境配慮：省エネルギー設備機器・低環境負荷材料の採用、ホテル・オフィス北面のLow-E複層ガラスの採用、オフィス部の簡易エアフローシステムの採用、CASBEE A評価

建築主	東海旅客鉄道株式会社 新横浜ステーション開発株式会社
所在地	横浜市港北区新横浜2-100
敷地面積	17,380.15m^2
延べ面積	100,725.86m^2
階数	地下4階、地上19階
構造	鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造
工期	2005年7月～2008年2月 （駅前広場竣工：2008年5月）

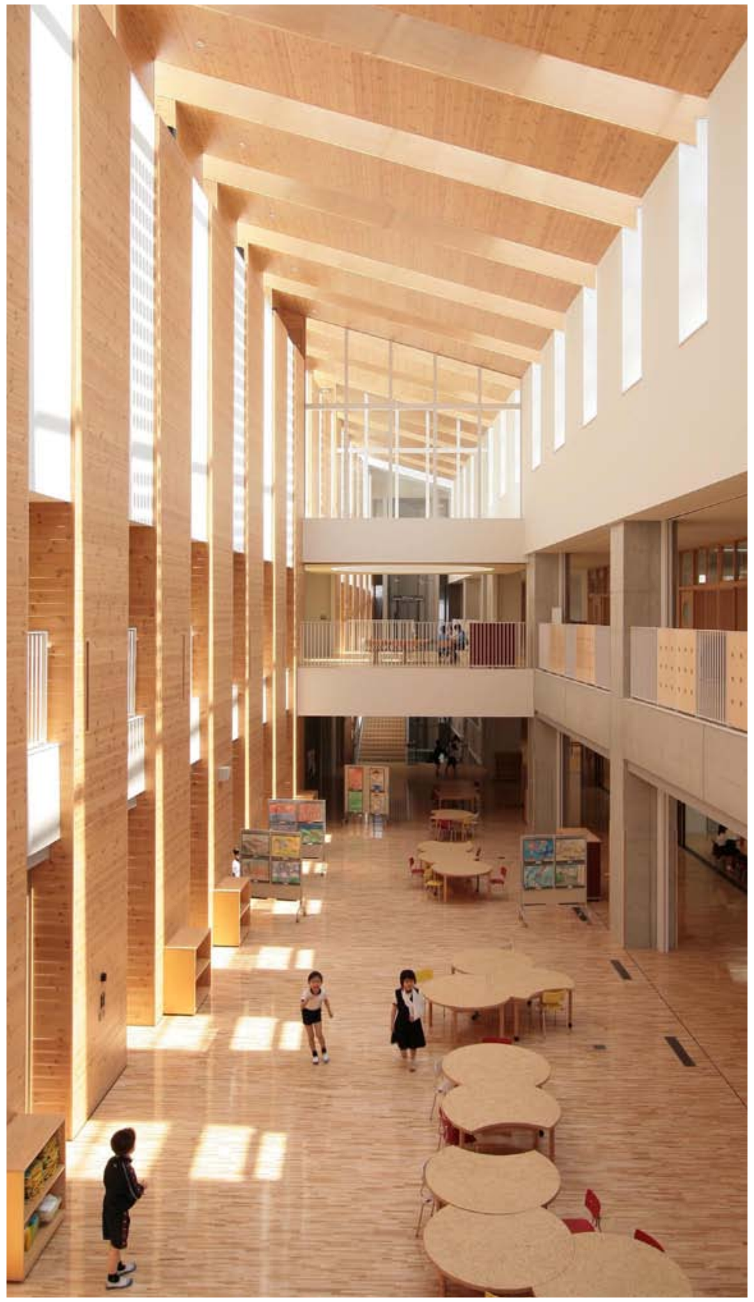
写真：©SS東京

昭和学院 小学校

小・中・高からなるキャンパス全体の建替え計画のスタートとなるプロジェクトです。自然エネルギーの有効利用を肌で感じてもらえるよう、オープンスペースの吹抜けは、自然換気・自然採光を積極的に採用し、太陽光発電や太陽熱利用の床暖房を設置しました。昇降口、体育館、グラウンドを視覚的に連続させ小学生らしい活発さにふさわしい空間を目指しました。

主な環境配慮：自然換気、自然採光、太陽光発電設備、太陽熱利用床暖房、雨水利用、屋上緑化、再生木ウッドデッキ

建築主　学校法人 昭和学院
所在地　千葉県市川市東菅野2-17-1
敷地面積　10,539.29m^2
延べ面積　8,284.72m^2
階数　地上3階
構造　鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造
工期　2007年4月～2008年3月



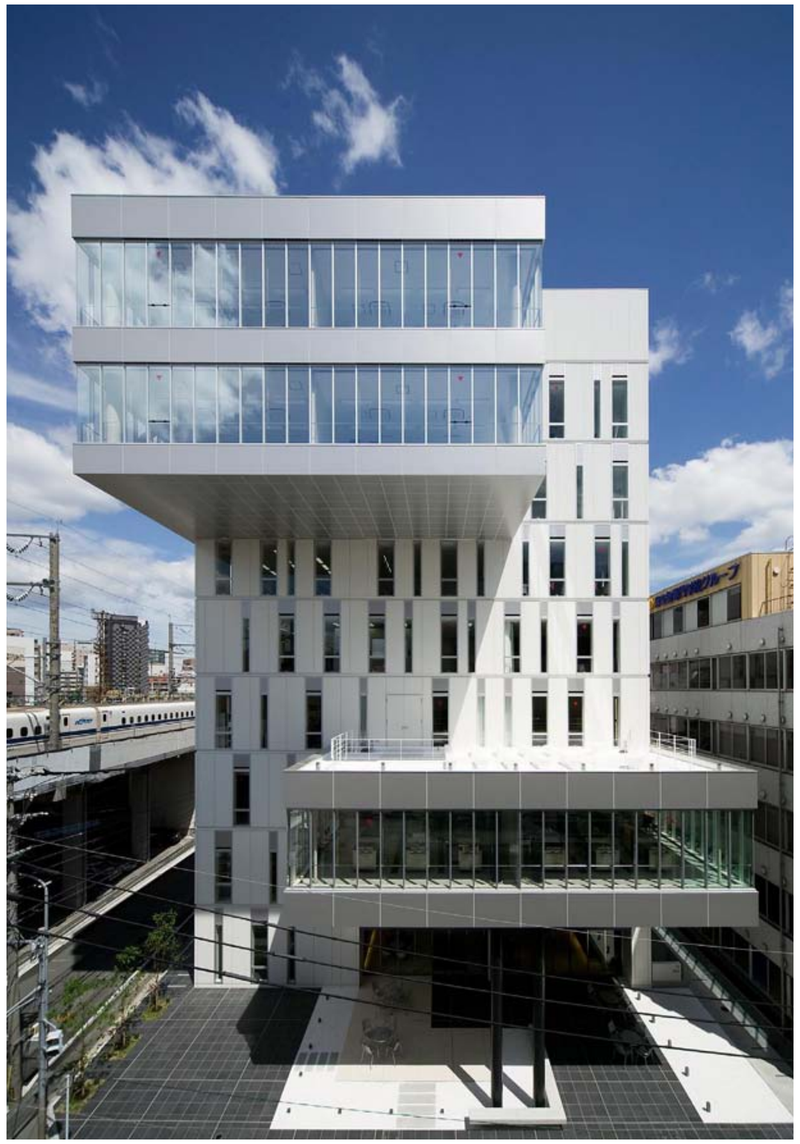
写真：© 平剛風アトリエ

ASO SKY CUBE（麻生塾福岡キャンパス8号館）

JR鹿児島本線の線路沿いに建つ、麻生塾の新校舎です。学校のショールームとしてインパクトのある建物にするため、大きな床面積が必要な教室はボックス状にして空中に浮かせ、足元周りはゆとりのある外部空間をつくりました。ホテルマン、パティシエ、キャビンアテンダントなどを育成する教室や宴会場、屋外結婚式場などを設け、さまざまな実習プログラムに対応できる施設としています。

主な環境配慮：共用部人感センサー照明制御、熱線反射ガラスの採用

建築主　学校法人 麻生塾
所在地　福岡市博多区博多駅南1-168～170
敷地面積　673.58m^2
延べ面積　2,686.56m^2
階数　地下1階、地上8階
構造　鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造
工期　2007年11月～2008年7月



写真：© 西日本写房

株式会社 日建設計シビル
大阪市中央区高麗橋 4-6-2
Tel　06-6229-6399　Fax　06-6229-3381
URL　http://www.nikken-civil.co.jp

シンガポールの新都市開発／共同溝インフラ整備

F1 史上初のナイトレースが行われた場所の目と鼻の先、Marina Bay を挟んだ対岸で、世界が注目する大規模開発が進められています。

「Singapore Flyer」と名付けられた高さ165mの観覧車が見下ろす約360haの敷地に、2009 年末の完成を目指すカジノ総合リゾートを皮切りにして、超高層ビルが立ち並ぶオフィス街、商業地区、そして大規模公園が次々と整備されます。

Marina Bay 地域共同溝整備プロジェクト

開発の進む新しい街の広い道路の下で、静かに、確実に人々の生活を支えるインフラが脈を打ち始めました。

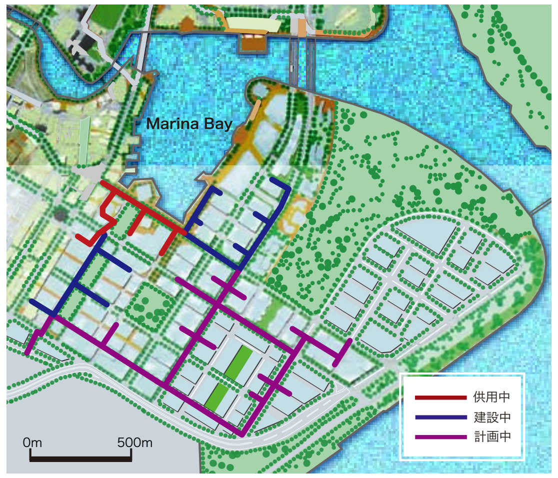
1996 年から現在に至るまで、NSC ではMarina Bay 地域における共同溝整備プロジェクトを、計画段階から実施設計まで、現地の事務所と共同で行っています。12 年前にスタートを切ったプロジェクトの第 1 期部分が 2006 年に供用開始となり、この地域での開発が本格化し始めました。

拡大する超高層ビル群と延伸する大動脈

現在、この地域では、中心市街地に新たな超高層ビル群が加わる新都市開発と、都市の大動脈となる共同溝の延伸工事が同時並行で進んでいます。本プロジェクトでは、都市開発の計画段階から関係者との協議を重ねることにより、合理的かつ戦略的な共同溝の延伸を行うことが可能となりました。

未来型都市インフラ実現へのアプローチ

近年、世界各地でこのような高密度集中型の都市開発が進められようとしています。新しい都市開発では、維持管理、エネルギー効率、環境、そして、都市景観が重視されており、共同溝という集約型のインフラ設備も欠かせない存在となっています。NSC では、世界中の都市を支える共同溝整備プロジェクトに、今後も積極的に参画していきたいと考えています。



Marina Bay 地域の共同溝ルート

共同溝内に集約された主要ライフライン

共同溝サイトから新都市開発エリアを望む

日建設計コンストラクション・マネジメント 株式会社
東京都千代田区九段北 1-13-5
Tel　03-3265-4300　Fax　03-3265-4303
URL　http://www.nikken-cm.com

建築分野における総合マネジメント会社として

NCMでは発足当初より、施工段階のみではなく、基本構想段階・基本計画段階から、かかわらせて頂いているプロジェクトが多数あります。今回はその中から、特にホテルの改修計画やリブランディングに伴うCM業務についてご紹介いたします。

「ヒルトンニセコビレッジ」リブランディング改修工事CM業務

築14 年の「ニセコ東山プリンスホテル」を「ヒルトン」へと、リブランディングする改修工事のPM／CM業務です。基本計画段階から設計・発注・工事完了まで10 ヶ月という非常にタイトなスケジュールのもと、限られた予算の中で最大の効果を発揮するよう、マクロな事業予算のコントロール＝「お財布づくり」と、6 社コストオン発注による工事から家具什器備品購入にまで至る微細な精算＝「家計簿づくり」を一貫して実践し、高いコストパフォーマンスを実現しました。

「京王プラザホテル」改修工事CM業務

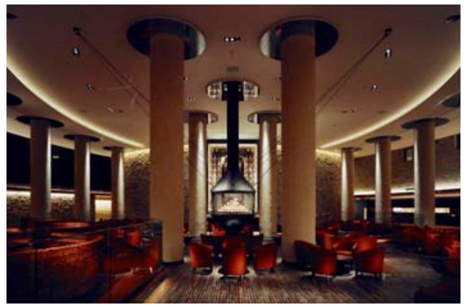
コンコードボールルームは、「京王プラザホテル」の顔、そして都内有数の大面積を有する宴会場として、数々のパーティや学会･ショーイベントなどの場を提供してきました。こうした中で開業36 年を迎え、一層のグレードアップを目指すため「威風堂々とした総合宴会場」をコンセプトに、2007年春より改修工事のPM／CM業務に取り組んでいます。

「沖縄都ホテル」「ホテル日航那覇グランドキャッスル」他CM業務

「沖縄都ホテル」の客室全室、レストランの改修を日建スペースデザインとともに進めました。レストランは朝食以外の利用は地元の方の割合が高いことから、沖縄一色のデザインから脱皮することをポイントにしつつ、県外からの宿泊者の利用も考慮し、沖縄のモチーフを置くなど、雰囲気づくりの検討にも参画しました。

また、近鉄ホテルシステムズからの年間アドバイザリー業務をはじめ、単発のご依頼ではなく継続的にかかわらせて頂けるクライアントも増えてきました。国内・海外のインテリアデザイナーとの調整をはじめ、プロジェクトの初期段階から参画し、建物の解体撤去・遵法性・設備対応に関する技術支援なども行っています。

NCM は型に捉われず、クライアントの利益の最大化をめざし、総合的なマネジメント業務を行っています。



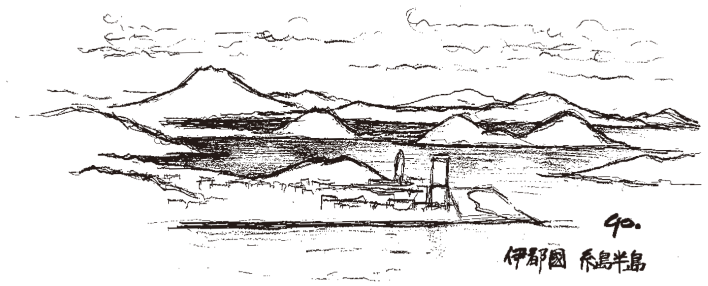
「ヒルトン ニセコ ビレッジ」ロビー

「京王プラザホテル」コンコードボールルーム

「沖縄都ホテル」レストラン

「ホテル日航那覇グランドキャッスル」ロビー

九州とアジアから生み出す現代の「新天地」



豊かな自然を内包する地「九州」

今年の６月、上海オフィスの中国人スタッフ20名が九州を訪れました。彼らにとって初めての九州は新鮮な驚きの連続でした。曇天の朝、長崎の雲仙からバスで出発、有明海をフェリーで渡る頃には小雨模様でしたが、熊本から南阿蘇に向かう道で本降りの雨に変わり、阿蘇山頂付近ではちょっとした嵐になってしまいました。ところが火口を見物している間に日が差し始め、草千里からの下り道は雲海の上、周囲のすべては雲の中、遠くに望めるのはたったひとつ、朝そこから出発してきたはずの雲仙普賢岳の頂、まさに絶景でした。

「九州はすごい、１時間走れば山から海、海から山と景色が変わる。海も山も見たことがないほど美しい」……天下に奇景奇観は多くても、そう簡単には行き着けない、車で何時間走ってもあまり景色が変わらないほど広い国土をもつ中国の人々にとって、変化に満ち、明快な色彩に彩られた九州の自然は新鮮な魅力にあふれたものに違いありません。

中国の平野部では周辺の景色の中に樹木が少ないことに気がつきます。なかなか森が見つけられないのです。韓国の景色も緑が豊かとは言えません。ともに中世まで続いた戦乱時に、燃料として森林を大量に消費してしまったため地力が低下したのが遠因だと言われています。保水力の低下した北京の周辺は今、確実に砂漠化しつつあります。こうした地域に比べて九州の自然の美しさ、豊かさは際立っています。東アジアの人々にとって、その価値は想像以上に大きなものなのではないでしょうか。

夢を紡ぐユートピア

古代の九州には東アジアの諸地域からたくさんの人と文化が渡ってきました。中国の春秋戦国から半島での三国時代にかけて多くの人々が九州に渡来しました。この時代に海を越えることが容易だったはずはありません。強固な意志と明確な目的をもち、海を越える技術と財力をもった集団として海を渡ったはずです。何のためだったのでしょう。

古代の九州は単に大陸との交流の拠点というよりも、東アジアと一体の地域であって、戦乱に倦(あぐ)んだ東アジアの諸民族にとって新たな夢を紡ぐためのユートピア、新天地だったのではないでしょうか。九州各地に伝わる祭りに、伝説に、地名に、食べ物に、その影響は深く刻まれて今日に至っています。

互いの潜在力を引き出し合い、新天地をつくる

今、東アジアの国々にとっての共通課題は、環境問題とのバランスをとった成長を実現することであり、日本の貢献に大きな期待が集まっています。環境と公害問題に取り組んできた先進地域である九州は、その中核となって積極的な役割を果たしていくことができるはずです。そして、豊かな自然、個性あふれる都市、温泉、リゾート、ハイテク産業、安全でおいしい食品、高度な医療サービス、教育、人材、九州のもつ魅力と力はアジアの国々との関係の中で、さらにその価値を増すに違いありません。

九州とアジアとがかつての一体感を取り戻し、それぞれの潜在力に人とパワーを積極的に取り込むことで新たな価値を生み出す、お互いがお互いの新天地になることができれば、アメリカ中心のグローバリズムからの脱却を目指す新たな時代に大きな意味をもつことになると考えています。

日建設計
常務 九州代表兼海外プロジェクト担当
横谷英之
（よこや ひでゆき）

Q

NIKKEN SEKKEI
Quarterly
vol.23
2008 Winter

株式会社 日建設計
http://www.nikken.co.jp
事業所
東京 〒102-8117 東京都千代田区飯田橋 2-18-3
大阪 〒541-8528 大阪市中央区高麗橋 4-6-2
名古屋 〒460-0008 名古屋市中区栄 4-15-32
九州 〒810-0001 福岡市中央区天神 1-12-14
東北支社 〒980-0021 仙台市青葉区中央 4-10-3
海外拠点 上海、大連、台北、ドバイ、ハノイ、ホーチミン、ソウル

グループ会社
株式会社 日建設計総合研究所
http://www.nikken-ri.com

株式会社 日建設計シビル
http://www.nikken-civil.co.jp

株式会社 北海道日建設計
http://www.h-nikken.co.jp

株式会社 日建ハウジングシステム
http://www.nikken-hs.co.jp

株式会社 日建スペースデザイン
http://www.nspacedesign.co.jp

日建設計マネジメントソリューションズ 株式会社
http://www.nikken-ms.com

日建設計コンストラクション・マネジメント 株式会社
http://www.nikken-cm.com

株式会社 ビルディング・パフォーマンス・コンサルティング
http://www.bpc-jp.com

発行 株式会社日建設計
〒102-8117 東京都千代田区飯田橋 2-18-3
広報室 Tel 03-6478-8334
Fax 03-5226-3044
制作 株式会社フリックスタジオ
デザイン 新目 忍
印刷 株式会社文化カラー印刷

表紙写真「かごしま環境未来館」 撮影：三好芳昭